



色づいた実を丁寧にカット

「不知火みかん狩りウォーキング大会」 色づく道を歩いて

11/11 「不知火みかん狩りウォーキング大会」が、道の駅不知火を発着に開かれ、約250人が参加しました。宇城市体育協会不知火支部(松尾恵介支部長)の主催。参加者は約8^{キロ}のコースを歩き、畑では色づいた実を収穫。松橋小5年の内田佑樹君は「おしゃべりをしながらちぎるのが楽しい。何度も参加しているので甘い実がなる木も分かるようになった」と満面の笑顔でした。



東港区内を練り歩いたみこし行列

こんびらく 金刀比羅宮大祭 秋を彩る巡行行列

11/11 三角町東港四区の金刀比羅宮で秋の大祭が行われました。出店が立ち並んだ近くの広場では、餅投げやステージイベントなどもあり、多くの人でにぎわいました。これは、区内の商工会事業所などで構成する金刀比羅宮東港商工会奉賛会が主催する恒例行事。この日は、青年たちによるみこし行列も地域を巡り、参加した子どもたちが威勢のいい掛け声を響かせていました。



屋外のプレーカーも一つ一つ点検しました

宇城電気工事協同組合青年部 電気のことボランティアを

11/14 宇城電気工事協同組合青年部など5人が、ボランティアとして市内の公園8カ所の電気設備を点検しました。これは地域貢献のために何かできないかと考えていた同青年部が、自らの技術を活用しようと始めたもの。福田浩之青年部長は「照明器具やセンサーの点検など、電気工事の知識を地元のために生かしたかった。これからも続けていきたい」と話していました。



バッティングの練習

松橋町野球協会主催「宇城市少年野球教室」 野球の楽しさを味わって

11/17 野球教室が豊野屋内多目的広場で行われ、市内の中学生42人が守備や打撃を学びました。講師は、元プロ野球選手で監督なども務めた江藤省三さん(76)＝神奈川県川崎市＝。西部中(現松橋中)の卒業生で、ふるさとの子どもの技術向上を図ろうと毎年指導を行っています。江藤さんは「野球を好きになり、努力を積み重ねることで夢をかなえてほしい」と指南しました。

宇城市戦没者追悼式 平和への願い

11/10 ラポートで戦没者追悼式が開かれ、遺族など364人が参加しました。戦没者に哀悼の意をささげ、平和を祈念するもので、市主催。遺族や市内の児童生徒などが献花を行いました。松橋小6年の松永夕舞さんが「平和の実現に近づくためには戦争の歴史を正しく知り、次の世代へ広めていかなければならない」と作文を朗読し、会場からは大きな拍手が送られていました。



平和への願いを一生懸命伝えました

子どもの楽校 DAY キャンプ 子ども同士や地域の人とのふれあいを

11/10 豊野少年自然の家でキャンプがあり、小学生40人やボランティアなどが参加しました。「子どもの楽校」は、松橋公民館が毎年開催している講座。この日は、画用紙に絵や言葉をかいて、小枝などで飾る創作活動と、火のおこし方などを教わりながら、カレー作りに挑戦しました。松橋小5年の高田舜君は「自分で考えて作ることが好きなので、とても楽しかった」と笑顔で話しました。



飯ごうの使い方の説明を受けました

宇城広域連合消防本部「うき消防ふれあいフェア」 体験して防災の大切さを学ぼう

11/10 秋の火災予防週間に合わせ、防災フェアがイオンモール宇城で開かれ、多くの人を訪れました。来場者は、高さ30^{センチ}(10階建て相当)のはしご車試乗体験や煙体験などから、防災の大切さを学んでいました。宇城広域連合消防本部の岩本和也消防長は「熊本地震以降、防災の大事さが再認識された。関係者も協力的で、多くの人に喜ばれるイベントになってきた」と話しました。



はしご車試乗体験

煙体験

津志田千恵美さんと教室生による押し花体験会 押し花の楽しさを感じて

11/11 不知火町で押し花教室を開いている津志田千恵美さんとその教室生による押し花体験会が、中央公民館で開催され、多くの人クリアファイルづくりを楽しみました。参加者は、色付けされた押し花をクリアファイルに並べ、マスキングテープなどで飾り、作品を完成させていました。津志田さんは「押し花を好きになってもらえるのが何よりの喜び」と笑顔で話しました。



子どもも大人も夢中になる楽しさ



真剣に画面を見つめる児童たち

小川工高「ものづくり地域支援プロジェクト」 高校生によるプログラミング教室

11/21 海東小でプログラミング教室がありました。小川工高の主催。生徒5人が講師となり、児童8人が簡単な操作でプログラミングが学べるソフト「スクラッチ」を使って命令を組み合わせ、猫を動かし、リンゴをつかむゲームを完成させました。講師を務めた浅野勝也さん(3年)は「楽しく学んでくれた。これをきっかけにプログラミングに興味を持ってもらえたら」と話しました。

シンガポールからの訪問団が10回目の来訪 温かい交流を深めて

11/17～21 シンガポールブーンレイ中の生徒たちが宇城市を訪れ、市内の中学生らと交流を深めました。これは、生徒たちに国際感覚を身に付けてもらおうと、両市の生徒を派遣し合っているもの。今回訪れたのは、生徒10人と教師3人。豊野少年自然の家で市内の中学生らと手巻き寿司を作ったり、ホームステイをしながら中学校に通ったり、日本文化や宇城市の自然に触れました。



19日には小川中で歓迎会が開かれました



グループで活発な意見交換が行われました

「宇城市自主防災組織連絡会議」 防災力向上と顔の見える関係づくりを

11/22 市役所で「宇城市自主防災組織連絡会議」が開かれ、自主防災組織などの代表者ら約90人が出席しました。組織間の連携を深めようと市が初めて開催したもの。自主防災組織の支援を行っている熊本県危機管理防災課の坂本憲太郎さんが自主防災組織の必要性などについて話し、「災害時に期待される自主防災活動とは」などについて話し合うワークショップも行われました。

「かるかや市」 2月3日(日)にも開催します 歩きたくなるようなまちづくりを目指して

11/18 まちづくり団体「刈萱会」(安井敏雄会長)が、小川町商店街で市を開きました。まちの歴史を生かしながら新しい交流の場を設けようと初開催したもの。国登録有形文化財「新翹屋」や熊本地震で空き地になった場所に15店舗が出店。温かいだご汁や布ぞうりなどの商品が並び、多くの人を迎え入れていました。安井会長は「会話を楽しむ場として活性化させたい」と話しました。

来てね



焼きたてのちくわなどを買い求める人たち



撮影した作品を見ながら指導を受けました

「写真がもっと楽しくなる」カメラ講座 多くの作品を鑑賞して感性を磨こう

11/23 中央図書館でカメラ講座が開かれ、30代～70代の男女12人が参加しました。これは、同館が企画する「はじめの一步セミナー」の1つ。講師は、全日本写真連盟西部本部委員長で全国の写真コンテストの審査員として活動している不知火町の松井寛さん。参加者は写真撮影の基礎を学んだ後に、建物や植物、人物などを撮影し、松井さんからアドバイスを受けていました。

不知火小で「出張版お金の教室」 銀行は何をしているところ?!

11/20 不知火小でお金の教室が開かれました。これは肥後銀行が小学生を対象に行っているもので、今回は出張版として不知火小で3年生を対象に開催。この日は三角町や不知火町で運行しているハモニカーの見学や、店舗に導入されている人型ロボット「パルロ」によるお金や銀行に関するクイズなどがあり、参加した児童たちは大きな声で○×クイズに挑戦していました。



窓口などの店舗機能を備えたハモニカーを見学



浄水場を見学する児童たち

三角小児童が上水道施設を見学 生活に身近な水について学ぼう

11/27 三角小4年の38人が、石打ダムと三角町浄水場を訪れました。これは、生活用水について学ぶ社会科学学習の一環で、上水道施設を見学したもの。児童たちは、ダムの監査廊の内部や浄水場の水をろ過する装置などを見学し、水道水ができるまでに多くの労力がかかっていることや水の大切さについて学びました。

◆見学団体随時募集! 三角支所 経済課 ☎53-1111

「計量教室」 私たちの生活に身近なはかり

11/20 11月の「計量強調月間」に合わせて、熊本県と(一社)熊本県計量協会が市役所で「計量教室」を開き、宇城市地域婦人会連絡協議会員約20人が参加しました。参加者は、実際に購入した生鮮食品や加工食品を計量し、内容量が適正に表示されているかなどを確認。内容量不足はトレーや添え物の重さを正しく引いていないことや自然乾燥などが主な原因であることなどを学びました。



買い物に出掛け、実際に購入した113品を計量

ワクワクドキドキさせる戸馳神社周辺に遊びに来てはいよ

戸馳神社

建立は1738年(元文3年)。今から280年前に建てられました。「国造りの神」「学問の神」「海の守護神」として現在も住民の信仰を集めています。石段のところには、若いカップルに試してほしい「恋おみくじ」もあります。



めおといちようぼく 夫婦銀杏木 — 樹齢110年 —

このイチヨウの木は全国的にも珍しく、1本の木から雄木と雌木の両性が育っているもので、雄木は大きく、雌木は隣に寄り添い、秋になればたくさんの実を付けます。この御神木は、夫婦円満をもたらすと地域で大切に守られています。



仁王立像建立記念碑

神社の入口に立つ仁王立像は一つの大きな石を彫って出来上がったものです。腹痛のときには自分の腹と仁王像の腹を、頭痛のときには自分の頭と仁王像の頭をなでるとその痛みがやわらいだり、治ったりするとの言い伝えがあります。



若宮海水浴場

神社前には、南国を思わせる若宮海水浴場があります。ビーチが広がり、若い人には1年中人気があります。前撮りや記念撮影にも多くの人々が訪れ、元旦には日の出スポットとしても注目されています。隣の「花のがっこう」もおすすめです。



防災備蓄倉庫最初の着工へ 復興のシンボルとなる場所を目指して

11/28 災害時の食料や飲料水、防災器具などを備蓄する防災備蓄倉庫の起工式が建設地である旧宇城市小川支所跡地で行われ、守田憲史市長や市議、施工者など約30人が工事の安全を祈りました。これは、市が市内6カ所に整備を進めている「防災拠点センター(仮称)」に隣接する倉庫で、最初の着工。倉庫は1階建てで、床面積は150㎡。総工費は3,000万円で、工期は5月まで。



あいさつをする守田市長

母校の小川中で巻誠一郎選手が講演 夢を実現するために

11/28 小川中で、サッカー元日本代表で卒業生の巻誠一郎選手(ロアッソ熊本)の講演会が開かれました。ドイツワールドカップで先発出場したブラジル戦の経験などから「本当に困難なときは自分がやってきたことしかできない」「普段からいろんなことに感謝することが一番大事」と、夢を実現するために自ら行っていることを全校生徒に熱心に語り掛けていました。



実技を披露しながらプロの技術を解説

宇城市地区福祉リーダー研修会 地域のつながりについて考える

11/29 地域福祉について考える研修会がレポートで開かれ、約300人が参加しました。宇城市社会福祉協議会の主催。「お互いさまの地域づくり」と題した社協職員による方言を交えたユーモラスな劇や、モデル地区の発表が行われました。基調講演では保健師の廣末ゆかさんが「みんなが幸せに暮らせるまちを目指して、住民も行政も協力して地域づくりをしましょう」と講話しました。



方言を交えたコミカルな演技を披露

第14回東京宇城市会総会・懇親会 ふるさとに思いを馳せて

12/1 首都圏在住の宇城市出身者で構成する「東京宇城市会」の総会が、東京都千代田区の東海大学校友会館で開かれ、会員など約120人が集いました。守田憲史市長と浅井正文副市長も出席し、災害復興住宅や光通信の整備状況、天城橋開通などについて報告。懇親会では、宇城市の事業所から提供された協賛品の抽選会や、特産品の即売会などが行われ、ふるさとを懐かしみました。



会員とその家族などが参加しました

3月30日☺には、
新しい戸馳大橋も開通しますよ！

開通式に合わせて、戸馳ではさまざまなイベントを考えています。3月号をお楽しみに。

(完成イメージ図)